

在宅看護学概論

必修

開講年次：2 年次後期

科目区分：講義

単 位：1 単位

講義時間：15 時間

■**科目のねらい**：在宅看護の概念および発展過程について学習する。健康障がいを持ちながら在宅で生活する人々とその家族の健康と生活を支え、生活の質向上を支援する在宅看護活動について学習する。在宅看護における倫理と権利擁護について学ぶ。

- 到達目標**：①在宅看護の概念、役割と機能、歴史的変遷について理解する。
②在宅看護対象者が有する健康および生活上の課題を理解する。
③在宅看護活動の特性を理解する。
④在宅看護活動に必要な諸制度と保健・医療・福祉システムを理解する。
⑤在宅看護における倫理と権利擁護について理解する。

■**担当教員**：

菊地 ひろみ

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 在宅看護とは何か
在宅看護の概念／在宅看護の目的と特性／人々の暮らしと在宅看護
- 第 2 回 在宅看護の歴史的変遷と発展過程
- 第 3 回 在宅看護の対象者（1）
年代、疾病および生活背景による対象の特性／在宅療養者が有する健康と生活課題／療養者の生活の質向上に対する看護の役割
- 第 4 回 在宅看護の対象者（2）
在宅療養者の家族が有する健康と生活課題／家族の生活の質向上に対する看護の役割
- 第 5 回 在宅看護活動を支える保健・医療・福祉システム
在宅看護活動と諸制度／在宅療養を支える保健・医療・福祉／社会資源
- 第 6 回 在宅看護活動の展開
在宅看護実践の構造／訪問看護ステーションの機能／多職種連携／継続看護
- 第 7 回 在宅看護と倫理、権利擁護
在宅看護における倫理／在宅療養者の権利擁護
- 第 8 回 在宅看護の課題と展望
- *講義の順番は進行状況により調整をする可能性がある。

■**教科書**：『在宅看護学講座』（2012）／スーディ神崎和代 他（ナカニシヤ出版）

■**参考文献**：適宜、紹介する。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標					評価基準	評価割合 (%)
	到達目標 ①	到達目標 ②	到達目標 ③	到達目標 ④	到達目標 ⑤		
定期試験	◎	◎	◎	◎	◎		80%
レポート	○	○	○	○	○	記述内容の適切性、妥当な記述量	20%
授業態度	○	○	○	○	○	講義への取り組み姿勢 授業態度、討論への参加など	評価時の参考とする
出席						1/3を超える欠席は欠格とする 代理で出席カードを提出するなど不正があった場合は1回で欠格。	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：在宅看護学は日本の医療のこれからを担う重要な看護学分野です。可能な限り日常生活を継続しながら療養をする在宅看護の対象者を人として全体的に捉える姿勢が大切です。あなたの周りに在宅看護（訪問看護）を受けている方が居られましたらお話を伺ってください。